

## 座談会 「いま読む、まど・みちお」



向かって左より…… 間中ケイ子、山中利子、はたちよしこ、海沼松世(司会)  
2019年6月23日 於：日本児童文学者協会事務局

### ●まど・みちおとの出会い

**海沼** 今年は、詩人まど・みちおの生誕一一〇年、没後五年の年にあたります。一〇四歳で亡くなるまで、まど・みちおが書き上げた作品は二〇〇編を超え、それらは今も多くの人々に読み継がれ、歌い継がれています。そこで今日は、はたちよしこさん、間中ケイ子さん、山中利子さんの三人の詩人の方々と、詩・童謡の世界で今もお第一人者であり続ける、まど・みちおの作品の魅力はどこにあるのか、詩人としての人となりはどうなのかなどについて新しい視点から光をあてることができればと思っています。どうぞよろしくお願いします。

まず、はたちさんから、まどさんとの最初の出会いについてお話いただけますか。

**はたち** 私が、まど先生のことを最初に知りましたのは、一九七五年、四年前です。当時、住んでいた神戸の本屋さんで、詩集『てんぷらびり』(天日本図書)を見つけた時です。すぐに買って、一〇〇回も二〇〇回も読みました。出版されたのは、一九六八年ですから、私が

手に取ったのは、七年も後のことになりましたが、心に強く残った詩集でした。まど先生ご自身も「私にとって記念すべき詩集です。これから詩を本気で考えるようになりました」と、他のところに書かれています。私は、この詩集を読んで、どうしてもお手紙を、と出させていただきました。先生は、すぐに返事をくださって、とても感動したのを覚えています。

**海沼** 詩集『てんぷらびり』を読み、手紙のやり取りから始まったということですね。

**はたち** そうです。実際にお会いするまでに転勤などで、一〇年くらいかかりました。はじめて、詩人の秋原秀夫さんに連れて行っていただいたんですが、その時、何を話したのか、記憶にないのです。きつと畏まっていたんだと思います(笑)。それから、何度かお会いいただき、最後にお会いしたのは、先生が一〇〇歳の時でした。

**海沼** 山中さんの義理の妹さんは、まどさんのご長男・京さんとご結婚をしており親戚関係にあります。家族同士の付き合いの中で、まどさんはどのような方でしたか。